

## 令和5年度 公共事業景観形成指針チェックシート活用事例の紹介

### ～景観に配慮した事例の紹介～

無電柱化事業にあわせ、歩道の整備や道路施設の配置などを工夫し、歴史的町並みと秩父の山並みを生かすとともに、解放感のある道路景観を創出するように設計した事例です。

課所名：秩父県土整備事務所(道路施設担当)

事業名：3・4・5中央通り線 街路整備工事(上町工区)

事業概要：(事業分類)道路・橋梁 道路詳細設計 L=620m

整備前状況写真  
(上町工区)



施工後のイメージ  
(整備済本町工区)



## チェックシートで使用した項目

### 〈景観配慮の必要性が高い工種〉

☒計 L=100m以上にわたり、照明灯や植栽帯(柵)、転落防止柵等(ガードレールやポラードを含む)が設置される道路・街路

☒アスファルト舗装、コンクリート舗装以外の舗装をする道路・街路(自然石舗装、レンガ舗装、コンクリートブロック舗装、コンクリート平板ブロック舗装、磁器タイル舗装など)

### 1. 眺められる対象としての工夫について

#### 【共通】

☒☒ 特に景観的配慮を要する場所では、舗装材(ブロック材)はなるべく小さい材料を使用する。

#### 【街路】

☒☒ 歩車道幅員比( $D_s/D$ )をできるだけ大きく(見えるように)する。

#### 【自由記述】

①歩車分離の車止めの設置間隔を大きくとることで視覚的な閉塞感を少なくし、日常的な商業地域の活動(停車・歩行・自転車)に余裕のある空間を創出した

②道路照明や街路灯などの施設を道路敷地境界付近に移設することで祭事で歩行者が道路いっぱいに賑わうイベントへ開放感ある景観創出した

### 2. 眺める場所としての工夫について

#### 【共通】

☒☒ 山岳や建造物、水面等の景観資源が適度な見込み角で見える位置に眺望点(視点)を計画する。

(景観資源 : 奥秩父山系・荒川水源地のやまなみ)

#### 【道路・街路・橋梁】

☒☒ 山岳や建築物などがアイストップとなるように線形を計画する。

(景観資源 : 奥秩父山系・荒川水源地のやまなみ)

☒☒ 特に景観上の配慮を要する場所において、電柱、街路灯や電線共同溝の地上機器等をできるだけ壁面に寄せるようにする。

☒☒ 良好な沿道景観が眺められる場所では、視方向の立ち上がり(街路樹、街路灯、ガードレール、ポラード等)ができるだけ目立たないようにする。

(景観資源 : 町並み・歴史的住居等)

#### 【自由記述】

街路の電線地中化により、歴史的町並み等の背後に壮大な自然がダイナミックに変化する秩父のやまなみが見える